

平成18年度年度計画変更事項及び変更理由

(下線部は変更箇所)

変更前	変更後	変更理由
<p>・国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p>	<p>・国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p>	
<p>1. 自律的宇宙開発利用活動のための技術基盤維持・強化</p> <p>(B) 自在な宇宙開発を支えるインフラの整備</p> <p>(2) 宇宙インフラの運用 ・衛星間通信システム データ中継技術衛星「こだま(DRTS)」の運用を行い、陸域観測技術衛星「だいち(ALOS)」との 278Mbps の衛星間通信実験を行う。 <u>国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」(JEM)との衛星間通信実験の準備を行う。</u> 今後の大容量化などデータ中継技術の高度化及び運用効率化を目指し後継衛星の研究を実施する。</p>	<p>1. 自律的宇宙開発利用活動のための技術基盤維持・強化</p> <p>(B) 自在な宇宙開発を支えるインフラの整備</p> <p>(2) 宇宙インフラの運用 ・衛星間通信システム データ中継技術衛星「こだま(DRTS)」の運用を行い、陸域観測技術衛星「だいち(ALOS)」との 278Mbps の衛星間通信実験を行う。 今後の大容量化などデータ中継技術の高度化及び運用効率化を目指し後継衛星の研究を実施する。</p>	<p><u>中期計画の変更に伴う変更</u></p>
<p>2. 宇宙開発利用による社会経済への貢献</p> <p>(B) 国民生活の質の向上</p> <p>(4) 測位 準天頂衛星を利用した高精度測位実験システムについての設計を継続するとともに、衛星搭載用機器の地上試験モデルの製作・試験を行う。 ETS- を利用した静止軌道上での高精度軌道決定や地上との間の時刻管理等の実証に向けた準備を行うとともに、打上げ後の初期機能確認試験を実施する。</p>	<p>2. 宇宙開発利用による社会経済への貢献</p> <p>(B) 国民生活の質の向上</p> <p>(4) 測位 準天頂衛星を利用した高精度測位実験システムについての設計を継続するとともに、衛星搭載用機器の地上試験モデルの製作・試験を行う。<u>また、初号機の準天頂衛星の開発を行う。</u> ETS- を利用した静止軌道上での高精度軌道決定や地上との間の時刻管理等の実証に向けた準備を行うとともに、打上げ後の初期機能確認試験を実施する。</p>	<p><u>中期計画の変更に伴う変更</u></p>

変更前	変更後	変更理由
<p>3. 国際宇宙ステーション事業の推進による国際的地位の確保と持続的発展</p> <p>(2) JEM の開発・運用 (a) JEM の打上げ・初期運用 与圧部(船内実験室)の射場での機能点検並びに打上げ準備作業を実施する。補給部与圧区及びマニピュレータについては、米国へ輸送し、打上げ準備作業を実施する。マニピュレータ安全化システムについては、PFM 製作試験等の開発を実施する。また、JEM 与圧部と運用管制システム間の総合組合せ試験を実施する。</p>	<p>3. 国際宇宙ステーション事業の推進による国際的地位の確保と持続的発展</p> <p>(2) JEM の開発・運用準備 (a) JEM の開発 与圧部(船内実験室)の射場での機能点検並びに打上げ準備作業を実施する。補給部与圧区及びマニピュレータについては、米国へ輸送し、打上げ準備作業を実施する。マニピュレータ安全化システムについては、PFM 製作試験等の開発を実施する。また、JEM 与圧部と運用管制システム間の総合組合せ試験を実施する。</p>	<p><u>中期計画の変更に伴う変更</u></p>
<p>(3) JEM 搭載実験装置の開発 (a) 流体物理実験装置等の JEM 船内実験室に搭載する実験装置や、全天 X 線監視装置等の船外実験プラットフォームに搭載する実験装置を開発する。また、JEM 船内実験室に搭載する実験装置については、船内実験室搭載のための検証試験を行うとともに、NASA ケネディ宇宙センターでの打上げ準備作業を行う。また、打上げ及び軌道上検証に向けての準備作業を行う。さらに、JEM 初期利用段階に続く利用(平成 22 年 - 平成 24 年頃を想定)での搭載実験装置の検討を行う。 (b) 初期利用段階として選定されたテーマの軌道上実験準備を行う。</p>	<p>(3) JEM 搭載実験装置の開発 流体物理実験装置等の JEM 船内実験室に搭載する実験装置や、全天 X 線監視装置等の船外実験プラットフォームに搭載する実験装置を開発する。また、JEM 船内実験室に搭載する実験装置については、船内実験室搭載のための検証試験を行うとともに、NASA ケネディ宇宙センターでの打上げ準備作業を行う。また、打上げ及び軌道上検証に向けての準備作業を行う。さらに、JEM 初期利用段階に続く利用(平成 22 年 - 平成 24 年頃を想定)での搭載実験装置の検討を行う。</p>	<p><u>中期計画の変更に伴う変更</u></p>